
先輩、フラグ立ててから攻略しに行きますねッ！

ひとみ

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

先輩、フラグ立ててから攻略しに行きますねッ！

【Nコード】

N4958Y

【作者名】

ひとみ

【あらすじ】

姫南 梨伊菜、16歳・・・っ

先輩の観察日kk（殴

・・・じゃなくて、

ただのあたしの恋物語、始まり始まりっ！！

先輩っ！プロローグです！！（前書き）

先輩、キュン死させる気ですか？ b y ・梨伊菜

先輩っ！プロローグです！！

放課後・・・

今ここに、ありがちな光景――、
告白の瞬間が映し出されていた。

梨伊菜 『先輩っ！！！！』

ずっと前から、好きでした！！』

??????――あたしの言葉に、戸惑う先輩。
そうですね。

突然言われてびっくりしましたよね。

重い空気が渦巻いて。

居づらくなったあたしは、

梨伊菜 『突然すいませんでした・・・っ』

じ・・・じゃああのっ・・・失礼しました』

そう言って先輩の返事も聞かずに、
走り出してしまう今のあたし・・・
ダサすぎる・・・っ！

姫南 梨伊菜、

人生初の告白・・・保留ですっ！！↑自分が悪いっ！

先輩っ！設定です！！（前書き）

先輩、キュン死させる気ですか？

b y・梨伊菜

先輩っ！設定です！！

姫南 ひめなん 梨伊菜 りいな 女

・高1

・天然、バカ、ドジ

・初恋は幼稚園の頃↑

・あ、主人公です！

・意外とモテてるっぽいすねw

・一度目的を決めたら、

お腹がすくまで突っ走るタイプ

・表示：梨伊菜 『』

春川 はるか 愁太 しゅうた 男

・高2

・白の国の王子様とか プリンス

春の騎士とか言われてるそうデw

・主人公の相手の、いわゆる先輩

・表示：春川先輩 『』

高岸 たかぎし 蓮花 れんか 女

・高1

・主人公の親友（↑これは絶対いるよねww）

・顔よし、頭よし、運動神経悪しで↑かなりモテる

・はきはきしてる

・生徒会副会長

・基本こついうタイプ胸大きいんだが、実はBカップ

・表示：蓮花 『』

各務かがみ 瑠姫るぎ 男

・高2

・女っぽい名前だが、男ッ!!!

・若干チャラいそうでw

・愁太の親友

・頭意外といい

・これはこれでモテる

・前言撤回、かなりかつこいいです／／／／

・表示：瑠姫先輩 『』

先輩っ！第1話です！！（前書き）

先輩、キュン死させる気ですか？ b y ・梨伊菜

先輩っ！第1話です！！

こんにちは・・・

姫南 梨伊菜です。

只今、

梨伊菜 『ぶーー』

機嫌が悪いので、
そっとしておいてください。

蓮花 『梨伊菜あ（泣）

機嫌直して？』

・・・これは親友の高岸 蓮花。
今機嫌が悪いのは、
もちろん蓮花のせいなんかじゃない。

梨伊菜 『ううー・・・っ』

さつきからあたし何言って・・・w

蓮花 『あ、ほらっ！

かがみ
各務先輩だよっ』

・・・うん。

梨伊菜 『瑠姫先輩・・・だね』

蓮花 『・・・んなつ！？』

蓮花は瑠姫先輩派なんだもんねー・・・。

ちなみにこの学校、大体の女子が

瑠姫先輩派と春川先輩派に分かれている。

ちなみにあたしは春川先輩派。

梨伊菜 『春川せんぱーい・・・

せーんぱーあー・・・、・・・

・・・会いたい・・・』

名前呼ぶと、空しくなってくる・・・。

ちなみに今の状況。

・あたしは昨日、春川先輩に告白した。

・想いを伝えた挙句、その場から逃げ出してしまった。

・ってことで、病んでいる。

こんなところw

蓮花 『ねえー・・・

各務先輩んとこ行こーよーお』

とは言っても・・・。

梨伊菜 『・・・とりまきいるよ？

近づけないでしょw』

いまではファンクラブがあるほどの、瑠姫先輩。

あたしたちには程遠い・・・と言えば、

なんとなんと、嘘になる。

梨伊菜 『いくら仲良いからって、
別にどうっていうわけでもないし……』

・ ・ ・ あたしと瑠姫先輩は、
兄弟みたいなもの。

蓮花 『だよねえー……』

蓮花がしゅん……とする。
それを見かねたあたしは、

梨伊菜 『……行ってもいいけどー……』

と言った……ら。

蓮花 『マジっ!!?』
やほほーいっ!!』

・ ・ ・ おい（怒）
まあ、とにかく
言った限りは行くしかない。

梨伊菜 『瑠姫せんぱーいッ!!』
作者の都合で声掛けマース』

あたし、棒読みぐつじょぶり

瑠姫先輩 『おおっ！梨伊菜!!』

作者の都合は無視して対応するっ」

さらっと流しやすb

梨伊菜 「ほら。蓮花っ！」

▼瑠姫先輩は梨伊菜のスルー攻撃で
128のダメージ。

蓮花 「うつ・・・うん／／／」

蓮花は顔を赤らめて、
瑠姫先輩に声をかけた?????。

蓮花 「か・・・各務先輩!!
お久しぶりですっっ」

T o b e c o n t i n u e d

先輩っ！第2話です！！（前書き）

先輩、キュン死させる気ですか？ b y ・ 梨伊菜

先輩っ！第2話です！！

こんにちは！！！！

第2話も元気いっぱい・・・病んでます。
ところで今は、蓮花が瑠姫先輩に声を・・・

蓮花 『か・・・各務先輩！！

お久しぶりですっっ』

www言ったねーb

てか お久しぶりです なんだ！？
ってことは、会ったことあるんだねw

瑠姫先輩 『・・・？

あ。高岸さん？』

疑問系か・・・
これは・・・？

蓮花 『はいっ！！高岸蓮花です』

あれ？意外にww
普通だったみたいなパターンかww

瑠姫先輩 『この前はありがとね^^

なんかお返し、

した方がいいよね・・・？』

え。蓮花、瑠姫先輩になんかしたの？

蓮花 『いえっ！そんな

お返しだなんて・・・

とんでもありませんっっ』

・・・礼儀正しい蓮花ちゃん（呆）

瑠姫先輩 『で・・・でも・・・。』

瑠姫先輩おろおろ・・・

てかあたしの存在は！？

蓮花 『ほんと大丈夫ですからッ！（ニコッ）』

無いつぱいです。

てか・・・！？ニコッて！！！

今の何・・・？

瑠姫先輩 『んんー・・・。』

あ。じゃあ、なんか今度奢らせて？』

まあいつか・・・てか、てかつ！？

・・・これは蓮花どうするっ

蓮花 『えっ・・・／＼／＼／

じゃあ、お言葉に甘えて・・・』

いいんかいつ！！！！

・・・でもいいなー。あたしも春川先輩に、
こういうこと言われたい・・・／＼／＼／
↑

瑠姫先輩 『なんか欲しいものとかある?』

お!!!!!!

蓮花ッ!!!!

この前、ペンのセット欲しいって
言ってたよねっ!!

蓮花 『(心の声:あなたです先輩っ!!!!↑)
えーっと・・・特には・・・。』

・・・言わないんだ。
そして蓮花の目が一瞬泳いだことは、
突っ込まないでおこう・・・。

瑠姫先輩 『じゃあ、今度の日曜空いてる?
そこでなんかお店行って決めよ?』

瑠姫先輩・・・ナンパですかね、それ。
てか蓮花はこれを期待してたんだ?

蓮花 『はえいつ!!!!?ふぁ・・・ひゃい・・・
はいいいつ!!!!!!!!!!!!!!!!!!』

・・・蓮花動揺して噛みすぎww

瑠姫先輩 『じゃあ決まり!』

10時に高杉公園で・・・いい?』

↑どっ
w
b
y
.

作者

蓮花
はいつ

瑠姫先輩　「あ、じゃあばいばい」

瑠姫先輩は手を振りながら、
向こうへ行ってしまった。

．．．今気づけば、女子の視線が
すんばらしく痛いですね．．．。

蓮花
・
・
・
・
（パワー）

・
・
・
蓮花。

梨伊菜
「れーんつかちゃーん」

蓮花
「先輩が欲しいですー／＼／」

・ ・ ・ その君、補導されるよ？

梨伊菜　　「蓮花——、起きてよお——」

蓮花　　えへー……んー？

つ
!
!
?
?

蓮花が怖いつ！！！！！！

梨伊菜
・ ・ ・
おい（怒）

蓮花

というよりですね、驚き方なにw w

梨伊菜 『教室・・・いこう?』

あたしがそう言つと蓮花は、

蓮花 『はー・・・うん。

妄想に負けちゃってー^^』

と言つた・・・

ふざけんなよおいw w

梨伊菜 『・・・春川先輩。

どうしてるかなー・・・』

急に黄昏る(たそがれる)あたしって一体・・・。

蓮花 『梨伊菜ー・・・。

放課後会いにいこつか?』

・・・えっ?

梨伊菜 『はい』

蓮花 『・・・w w』

・・・蓮花が微妙な顔を(↑どんな顔w w)
している。

梨伊菜 『どしたの?』

蓮花
 別に・・なんでも・・W

梨伊菜　「あ、敬語使ったからか……（？）」

なるほど
W
W

蓮花　「ざっつらいと！」

カタカナにすらなっていない・・・
蓮花、英語この前97点取ったのに。

梨伊菜 うん

蓮花 うんって・・・

梨伊菜

蓮花 「
・ ・ ・ とにかく教室いこつか？
・ ・ ・ あ ・ ・ ・ つ！！！！！！」

-
-
- ?

蓮花どしたのー？

梨伊菜
蓮花あ？

そういつて、蓮花の見る方を見た……ら。

梨伊菜
・
・
・
つ
！

先輩
・
・
・
・
・
・
↳

先輩が、いた。

しっかりと、いた。

幻とかじゃない。本当に、いた。

蓮花 『梨伊菜・・・行ってきたら?』

蓮花は、あたしに優しく声を掛ける。

梨伊菜 『・・・いよ・・・。』

蓮花 『・・・え?』

梨伊菜 『行く勇気ないよ・・・っ!!!!』

いつもみたいに、
この前みたいに、

「春川せんぱーいつ」とかっていけないよ。

蓮花 『うん・・・』

じゃあ・・・。』

蓮花がそう言った、瞬間だった。

春川先輩 『・・・梨伊菜ちゃん』

梨伊菜 『（ビクッ）』

春川先輩の声が、
あたしに向けての声が、した。

蓮花 『梨伊菜・・・っ』

蓮花があたしの名前を呼ぶ。

梨伊菜 『・・・先輩』

あたしは、呟いた。

・・・呟くことしかできなかった。

春川先輩 『ちよつときてくれるかな・・・？』

昨日の告白のことだね・・・。

梨伊菜 『・・・っ』

はい・・・。

あたしは、返事をした。
はい、って。

後戻りハ、デキナイヨ。

T o b e c o n t i n u e d

先輩っ！第3話です！！（前書き）

先輩、キュン死させる気ですか？ b y ・梨伊菜

先輩っ！第3話です！！

春川先輩 『ちよつときてくれるかな・・・？』

春川先輩の、一言。

梨伊菜 『・・・っ

はい・・・』

あたしには、無力なんだと。
断る勇気なんかないんだと。

— ? 思い知らされた。

春川先輩 『じゃあ・・・

行こつか？』

春川先輩は、あたしに
優しく微笑みかける。

梨伊菜 『そうですね・・・』

— ? 屋上

?

春川先輩 『梨伊菜ちゃん。

昨日のこと・・・

なんだけど』

やっぱり・・・。

春川先輩は、

何を話すんだろう？

どんな返事を

してくれるんだろう？

春川先輩 『あのさ・・・

もうちょっと、

考えさせて——？

くれる、かな？』

思いもよらない、

一言だった。

絶対断られると

思ったから。

梨伊菜 『えっ・・・？あ、はい？』

・・・まともな返事が

できなかった。

春川先輩 『だめ・・・かな？』

春川先輩は

整った顔立ちで、

あたしに優しく問いかける。

梨伊菜 『いえ！！

全然大丈夫です！

あの・・・その・・・

あたし・・・

断られると思っていたから・・・

なんて言っていいか

わからなくて、

思わず“断られると思ってた”、
なんて言ってしまった。

それでも春川先輩は、

春川先輩 『そっかあ』

・・・そう、笑顔で

答えてくれた。

・・・期待してしまった。
その、笑顔に。

梨伊菜 『あのっ

・・・返事まってますね』

・・・言ってしまった。
時間ときに任せて・・・。

春川先輩 『ああ』

春川先輩は、

微笑む。

・・・あたしなんかに。

梨伊菜 『じゃあ・・・

もうすぐ時間なので、
戻りますね』

あたしがそう言つと、

春川先輩は、手を振って

春川先輩 『ばいばい』

と、言ってくれた。

あたしは、急いで

屋上を離れると、教室に戻った。

・・・期待してしまった。

コレハ、イケナイ事デスカ？

T o b e c o n t i n u e d

先輩っ！第4話です！！（前書き）

先輩、キュン死させる気ですか？

b y・梨伊菜

先輩っ！第4話です！！

教室に戻ると、

蓮花が心配そうに

あたしを出迎えてくれた。

蓮花 『梨伊菜・・・』

・・・どうだったの？』

・・・どうもこうもないんだよ？

梨伊菜 『もうちょっと』

考えさせてって・・・』

ふう・・・とため息をつき、

俯いていたあたしは、

蓮花と視線を合わせる。

蓮花 『え・・・え？』

蓮花が、予想以上に

落ち込んでいる

あたしの一言に、絶句している。

蓮花 『そ・・・つか？』

それなら

まだ期待していいよね！

梨伊菜、がんばれッ』

蓮花は、まるで天使のような
微笑みを浮かべて、
あたしに抱きついてきた。

梨伊菜 『蓮花・・・っ！

・・・大げさだよっ？』

蓮花のその仕草に、
あたしは、安心した。
元気が出た。
嬉しかった。

友達って・・・
良いもんだなって、

梨伊菜 『・・・がと』

素敵だなんて、

蓮花 『え・・・？』

幸せになるなんて、

梨伊菜 『ありがとね。

蓮花・・・！』

———？思った。

蓮花 『あ・・・たし、
まだ何にも

してないのに・・・
お礼言われるなんて。
・・・無力だなあ・・・」

蓮花の呟きに、
あたしは、

梨伊菜 「そんなことないッ!!」

蓮花がいてくれたから、
告白だってできたのに・・・

・・・蓮花はあたしの、

大切な――？

大切な、親友だよ・・・っ
」

またここで一つ、
成長できた気がするよ。

――？ううん、成長したよね。

こうやって絆が、
深まっていくんだなあ、って・・・

・・・感じるよ。
分かるよ。

心の中に、
しつかりとある。

温かくて、安心できて――？、
優しくなれる、そんなものが・・・。

蓮花のコト、
一生信じるよ。

蓮花 『梨伊菜あ・・・
そんなこと言わないでよ。』

――？泣けてきちゃうじゃん・・・ッ
『

だって・・・ね？

梨伊菜 『もっお・・・
れーんかーちゃんっ？』

あたし達は・・・、

蓮花 『・・・ッ、
うええええええええ・・・っ
ツく・・・ひ、つく・・・っ』

あたし達は、いつまでも――？

“ 友達 ” だ から 。

．．．。

梨伊菜 『 蓮花 ．．．

大好き ．．． だよ っ ．．．

ずっと、ずっと ．．．

親友 だよ ね ．．． っ
『

アノトキノ誓イ。

守ラレテイマスカ？

？ yes。

T o b e c o n t i n u e d

先輩っ！第5話です！！（前書き）

先輩、キュン死させる気ですか？ b y ・梨伊菜

先輩っ！第5話です！！

———？キーンコーンカーンコーン……

超次元で、放課後まで
ぶっ飛びました、あたし達は。

梨伊菜 『はああ……っ？』

……学生にとって、
授業終わったら
ため息をつく義務があるんだよ？

蓮花 『梨伊菜……（呆）』

蓮花がなぜか、呆れている……
だがしかーあしッ！！

梨伊菜 『いいでしょ！？』

……、だってだって！！
今日なんだよ？

ク・リ・ス・マ・ス！』

熱弁をふるうあたしに
蓮花は、

蓮花 『ありゃい？』

そーでしたっけね？』

蓮花は小首をかしげる。

梨伊菜 『そうだよッ！！』

でね、瑠姫先輩から、

お知らせがあるらしいの！！』

あたし達から皆様への、
クリスマスプレゼントです！！

蓮花 『え／＼／＼／

る・・・瑠姫先輩！？／／／／／／』

・・・ということで今日は、
番外編なり〜（´・ω・｀）っ

b y ・ 瑠姫先輩

———？蓮花宅

？

ここからは蓮花SIDEです。

———？午前9時55分・・・。

蓮花 『んへへ〜』

只今あたし、

高岸 蓮花は、超全力で
ニヤけていた。

・・・え？

名字高岸だったのか？って？

・・・設定、

ちゃんと読みなさいよねッ！？／／／／

はい、ツンデレ風に

言ってみましたゝあ・・・

だって今、

テンションが上がリすぎて

おかしくなってるから。

———？瑠姫先輩と・・・

・・・二人つきり、かあ・・・。。

ボンッ！

瞬時に顔が赤くなったのが
自分でもわかった。

・・・エッチな想像をしてしまった。

その想像をかき消すように、

パツと立ち上がったあたしは、

リビングの冷蔵庫に向おうと———？、

ぴんぽん・・・

蓮花 『ひゃッ!?!』

チャイムが鳴り、
びつくりしたあたしは、
思わず肩をすくめてしまった。

蓮花 『……る……、

瑠姫先輩だあ……っ／／／／』

……あたしは
今日というものに
名を変えた……
つまり、クリスマスに、
この間のお礼の予定を
入れてしまったのだ。

本当は高杉公園に、
だったのだが、瑠姫先輩が
“蓮花ちゃんが風邪ひくから
って言って……。

呼び名が

高岸さんから、
蓮花ちゃんに変わった……、
そのことだけでも、
考えてしまったら
心臓はバクバク鳴るというのに。

—— ?二人きりだなんて。

緊張で、思い出なんか
残ないんじゃないか？
って思っちゃう。

蓮花 『・・・考えてても
しょうがないか』

そう呟いたあたしは、
パタパタ・・・と
スリッパの乾いた音を
鳴らしながら、
小走りで玄関に向かった。

蓮花 『はぁーい・・・』

がちゃ・・・

玄関のドアを開けたら、
案の定、瑠姫先輩が立っていた。
・・・そう言えば
言い忘れてたんだけど、
瑠姫先輩が
あたしのことを、
“蓮花ちゃん”って
呼び始めてから、
あたしも
“瑠姫先輩”になった。

瑠姫先輩 『れんかちゃん^^

久しぶりーいつ
』

・・・相変わらず、
テンションが高い。
でもそこもカッコいい・・・／／／
って！

あたし、ベタぼれだよ／／／
・・・と、まあ気を取り直して・・・。

蓮花 『久しぶりって・・・
昨日会ったばかりじゃ
ないですかあ
』

あたしがそう言って笑うと、

瑠姫先輩は、フワッと微笑んで、

瑠姫先輩 『あー。
そーつけねー^^
』

プッ・・・

思わず二人で
吹き出してしまった。

蓮花 『あー、すいません・・・
寒いですよね。
中入ってください
』

あたしはそうって、
瑠姫先輩を家の中に

入れた――？。

瑠姫先輩 『あ、ごめんねー？』

じゃあ、お邪魔しまーす』

ここからは・・・

緊張ばかり、なんだね。

T
o
b
e
c
o
n
t
i
n
u
e
d

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4958y/>

先輩、フラグ立ててから攻略しに行きますねッ！

2011年12月25日18時49分発行